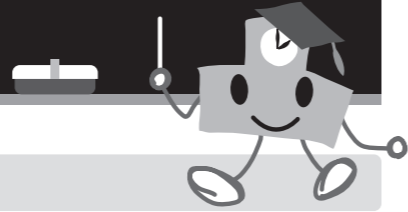


小学校の事例 手稲区 手稲山口小学校

# 遠足を兼ねた伝統の清掃活動。海岸の漂流ごみから世界環境を認識。

昭和50年から海水浴場の清掃活動「クリーン作戦」を行っている。活動をとおり、児童たちは環境問題を身近なこととしてとらえるようになった。ごみの中には他国の漂流物があることを知り、地域のみならず世界の環境にまで視野を広げている。



## 内容 徒歩40分の海岸でゴミ拾い

本校では昭和50年から毎年、遠足を兼ねた清掃活動「クリーン作戦」を行ってきた。活動は7月、昔は海水浴場になっていた「オタネ浜」で実施され、学校から川沿いに片道40分ほどの道程を全校児童が歩いて行くことで始まる。過去に、この浜の焚き木やジンギスカンのあとなどのごみ拾いを続けてきたことで、平成14年には海岸協会から表彰を受けたこともある。

しかし、近年この浜は遊泳禁止であり、「遠足として行くにはもう少し整備された場所のほうがよいので、そこでゴミ拾いや遊びをするべきではない」との声や、捨てられているごみの種類や状況から、「大人の後始末をなぜ子供たちが？」という疑問があがったことを受けて、今年度は全校で行うことに対し改めて検討することとなった。



「オタネ浜」の清掃風景

本校では5年生の総合的な学習の時間に、近隣にいくつかある公園のごみ拾いや落書き消しを行っている。「高学年の子供たちならば、オタネ浜にも行けるのではないか」という考えから、苦渋の選択ではあったが、全校行事から5年生の総合的な学習の時間に活動に変更し、「クリーン作戦」を実施した。

拾い集めたごみは、小樽市の廃棄物事業所に連絡をし、引き取りに来ていただいている。また、実施の際は事前に小樽市により下見がなされ、不法投棄など子どもへの影響が考えられるものについては前日までに撤去をするという連携がとれている。



波打ち際のごみ拾い

## 効果 海の向こうの世界へと視野が拡大

児童は「クリーン作戦」によって環境問題を身近なものとして感じ、日々、物を大切にするという環境意識をもつようになっていく。浜にどんなごみが落ちているかを見て、それについて学ぶことで、子供たちの心に「このままではいけない」という強い思いが生まれ、それは感想文の内容や、啓発ポスターを作成して掲示するなどの行動に表れている。

ごみの中には他国からの漂流物も多くあるため、海を通じて他国とつながっていることを理解し、逆に日本のごみが外国に出て行っているかもしれないということに気付き、「環境」を守るために、「自分たちに何ができるか」を考えることに発展している。

## 課題 子どもに見せたくない現状をどうするか

子供たちの活動と位置付けているが、事前の下見や作業の必要性、また、活動の翌日には再び大人の手によって汚されているという現実があることには悩まされるところである。協力を得ている小樽市として「子どもには見せたくない」現状も、子供たちに現実を見せ驚きを与えるということが、道徳的な要素を考えれば価値があるかもしれない。今は年に1日活動することのみで「これで終わり」としているが、果たしてそれでよいかどうか、向き合わなければならない課題である。



拾ったごみを分別

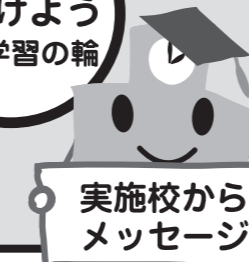
## 今後 地域の特性を生かした環境教育を継続

高学年の活動として、視野を広げるよい機会であり、大きく成長していくための土台づくりに大変適していると考えられる。活動の形を変えながらも、独自のスタイルと伝統を守って活動を継続していくことが理想である。また、地域との交流や、安全面に一層の安心が得られるなどの目的から、地域を取り込み協力を得る、あるいは親子での活動に転換することも視野に入れている。



楽しくごみ拾い

広げよう  
つなげよう  
環境学習の輪



実施校から  
メッセージ

現在の活動には、長年続けてきたという伝統を守ること以外にも、「どろんこになりながらも歩いて行ける」という体験に意味があると考えています。環境教育とは、地域ごとの特性を生かし、身近なところから始まって広くつながっていくものです。「一番は、自分たちの街、国を好きになること。自分たちの住んでいる地域をつくっていくという意識を忘れないでほしい。また、無駄をなくし、物を大切にすること。こういった小さいことを億劫がらずに、未来を思いやる心をもってほしい」と願っています。